
悪者たちのぶつくさ

imaiwa

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪者たちのぶつくれ

【Zマーク】

N4950E

【作者名】

imaiwa

【あらすじ】

悪者にされた魔物たちの立場になって言葉を代弁してみます。

(前書き)

また氣まぐれでつまらないものを書いてしまった・・使ひ古しつゝ
いですがお許しを
患者たちのぶつべき 2もよければどうぞ〜〜

アニメ、映画、小説、ドラマ

こういったものには、必ず悪人がいて

正義は勝つみたいなストーリーが多いんじゃないでしょうか？

例えば、勇者物語に出てくる魔王

魔王の場合

魔王 なんか俺を倒すって人間の奴等がいきりたってんぜ

部下A そうですね

部下A なんかストレスもあるんですかね

魔王 僕も平和的に解決したいんだが

魔王 奴等勝手に俺の城に不法侵入してきてあげく、部下見つける
といきなり剣や魔法で襲いかかって来るんだよ

魔王 ひでーよ

魔王 で、俺んとこくるだろ、俺が「お前等、良くも部下を殺して
くれたな」って言つたら

魔王 うつさい！この正義の剣で！とか言いつと切りかかって来るんだよ。

俺の言う事なんかききやーしねー・

魔王 しゃーないから、こちらもバトル開始だよ・

魔王 ちょっと反撃したらあいつら死ぬんだよな・

魔王 取りあえず墓つくつて供養しといたよ。

魔王 そしたらまた別の勇者とかがきて襲つて来るんだよ

魔王 僕も大変だよな

部下A そうですね

部下A 同情しますわ

魔王 お前ちょっと人間たちの様子みててくれ

部下A はい

部下Aはある村へ着いた。
草むらに隠れて様子を見る。

勇者 この剣さえあれば魔王を倒せるー。

魔法使い そうね勇者

僧侶 うむ

村の衆 賴みます。世界の運命はあなたたちにかかります。

勇者 じゃあ魔王の城へいこいつ。

勇者一向 おー！

部下A なんかいきりたつてるな・・俺たちがなにしたつてんだ・・

部下Aは勇者の後をひたすらついていった。

魔物A 腹減つたなあ

勇者一向 魔物だ！

魔物A ガアアアア（どなた？）

勇者 有無を言わさず剣できりかかる

魔物A ガアガア（ちよつとまてよ、話し合おうぜー・話せば分かる）

魔法使い 氷の魔法を唱えた。

魔物A ギヤアア（ひでー・・お前等化けて出るぞ・・・）

勇者一向 経験値とお金をまきあげた。

部下A ひでえ・・おいはぎかよ・・

部下A 城に帰つて魔王に知らせないと・

部下Aは羽をひろげ飛んで帰る。

魔王 あいつ無事に帰つてくるかなあ・・心配だ

部下A ただ今戻りました。

魔王 お~心配したぞ

魔王 どうだつた? 村の様子は

部下A なんといいますか、殺るきまんまんでこっち向かつています。

魔王 困つたなあ・・

部下A こっちに来る間にも仲間を惨殺して金まきあげていましたよ。

魔王 なんて酷い奴等だ・・

部下A 私が思うには、低級の魔物たちは人間語が話せないから誤解を生むんじゃないでしょうか?

魔王 ふむ~それもあるかもな・

部下A どうでしょう。一度低級魔物を教育してみては?

魔王 ふむ

魔王 部下A よ、各地から低級魔物を召集してくれ。

部下A わかりました。

魔王城には各地の魔物が集まつた。

人間偵察 A むむう、魔王城に魔物が集結している・・

決戦の日は近いのか・・しらせねば・・

人間偵察 A 魔法を使って移動。

人間偵察 A 魔王城の様子を勇者につたえねば

勇者一向は惨殺しまくつて疲れたし金もいっぱいになつたのである村の銀行によつていた。

人間偵察 A 勇者さま~

勇者 どうした?

人間偵察 A 魔物が城に集結しています

勇者 なんだつて!

勇者 やばいなあ、もつと強くならないときついな
勇者 よしもつと魔物倒して、経験値がつぱり稼いで
大勢やつつける魔法習得しようぜ

魔法使い んだね

僧侶 よし野に出て魔物ぶちころそつ。

勇者一向 おー！

そんな勇者の悪魔のプランを魔王たちはしらない・・

魔物たち ガアガアガアガガガア

魔王 ガアガア（お前等） ガアアガア（良く聞け）

魔物たち ガアガア（へえなんでしょう？）

魔王 ガアガア（お前等に人間後を教えようと思う。）

魔物たち ガアガガ（へ？人間語ですかい？）

魔王 ガガガ（そうだ）

魔王 ガアガガガガガ（お前等言葉通じなくて人間に殺されかかったことないか？）

魔物たち ガガガ（あります、あります！）

魔王 ガガガ（だろう？）

魔王 ガガガガ（だからお前等も人間語しゃべれるように教育する）

魔王 ガ工ガアガ（人間語できれば、言葉の行き違いが減つて仲よくなれるかもしけん）

魔物たち ガガガガアガ（それはいい案だ）

魔王 ガガガ（とりあえず人間の女さらつてきた）

魔王 ガガガガ（この人が今日からお前等の先生だ）

魔物たち ガガガ（先生よろしく）

女 助けて～～～

魔王 ジヤあ女よろしく

女 え？え・・

魔物たち ガガガガガアアア

女（助けて勇者様・・・）

部下Aはいやな胸騒ぎがした・・・

部下Aは人間たちの城にいつてみる。

人間の王様 姫がさらわれた・・・勇者をよべー

兵士 はい、

勇者が現れた。

王様 おう勇者よ、きててくれたか、とんでもないことになつてな・・・

勇者 どうかされましたか？

王様 姫がさらわれた・・・

勇者 なんてひどい・・・

王様 助け出して欲しい。

勇者 もちろん！

王様 お前にこのオリハル【】の剣をやろう

勇者 おお、これさえあれば余裕です。

部下A よりによつて・・姫さらつてゐし・・

部下A 魔王つたら・・

部下A 勇者また剣が強くなつてゐし、やばいつて・・

王様 急げ勇者よ、姫をたのむぞ

勇者 一行 任せてくれさい！必ずや魔王を打ち滅ぼします

勇者 一行 行くぞ

部下Aは魔王城に帰つてくると、魔王と話し合つた。

魔王 え？姫さらつたのダメだった？

部下A そりやだめですよ～仲よくしようつたりの元・・・

魔王 浅はかだつたか・・・

魔王 しかし、俺じやあの低級魔物どもに人間語教えないしな?

魔王 我慢たりないから、教えるつて柄じゃねーし、たぶん途中でキレル・・・

魔王 仕方ない・・魔法ババアに教育は任せるよ

魔王 多少魔物たちガツカリするだろうがな・・ババアだし

部下A まあその件はなんとかなるとして・・

部下A とりあえず勇者がごつい剣もつてこいつに向かつてます。。

魔王 むう・・

魔王 奴等話通じないからなあ・・

魔王 姫を帰さないと治まりつかないし

魔王 かといって、勇者に姫かえそうとしたら、切りつけられるしな・

魔王 部下Aよ、お前わしのために、いや全魔物のために命をくれないか?

魔王 お前が人間どもと話して説得してきてほしいんだ。

部下A えええええ・・

部下A やられちゃいますよ

部下A フルボッコですよ、だんな・・いや、魔王様

魔王 お前ならやれる!お前は人間語もつまいし、コミコニケーション能力も高い。

魔王 とりあえず、城にバリアはつて耐えるといこまで耐えるから・

魔王 たのむぞ・・・お前に一族の存亡が掛かっている・・

魔王は真剣な目で部下Aをみつめた・・

部下A ・・・

部下A やれるだけやってみましょう・・

魔王 うむ・・すまないな・・いつもお前に迷惑ばかりかけて・・
部下A 任せてください！この部下A、命にかえましても、奴等説得してきます。

部下A 勇者一行はもう間近まで来ています。

部下A 何とか持ちこたえてください・・私が帰るまで・・

部下A 死なないで・・

魔王 うむ・・頼んだぞ・・

部下Aはそうこうと、夕日の空へ羽ばたいていった。

魔王 さてと・・姫にも話しておかないとな

魔王は姫が魔物たちに人間語を教えている大ホールに足を運んだ

魔王 姫よ

姫 はい？なにか？

魔王 ちょっと話があるんだが・・

姫 ええ・・じゃあちょっと待つてくださいね。

姫 魔物Bさんちょっと魔王さんが話しあるみたいなので

姫 悪いけど席外しますね・・

魔物B ええ・・オデ・・やつど・・人間語・・わが・・りはじめたの・に

姫 ごめんね・・

姫 魔王さんとの話終わったら、また教えるから。

魔物C ガガガガ（オラにも教えてくれ）

魔物D おデ・・にももつと・・

魔物たちE F G ガアガア、おでにも・・おでにも・・

姫 もちろん！

姫 だからみんな待つててね！

魔王 むむ・・なんて良い娘だ・・魔物たちもあんなになついちま

つて・・

魔王と姫は大ホールを去ると魔王の部屋へやつってきた。
魔王は俯き加減で黙つていた。

姫 どうしたんですか？魔王さん・・

魔王 いや・・実はな・・

魔王は一部始終を姫に話した。

姫 えええ・・・そんなことiga・・
魔王 今、部下Aが決死の覚悟でお前の父である王のもとへ説得に向かつっている。

魔王 説得が成功すれば、姫、おまえを返そうと思つ。

姫 ・・・・・せつからく魔物さんたちと仲よくなれそつなのこ・・
姫 あの子達・・すゞいもの覚えいいんですよ・・

姫 それに優しいし・・

魔王 そうか・・しかし説得が失敗すれば、勇者の進行をとめるこ
とができる

魔王 いずれ、魔物たちも、そしてワシも勇者に殺されるだらうな・

・ 姫 そんな・・・

姫 そんな・・ことさせないわ！

姫 魔物だつて生きてるんですけども・・・！

部下C 魔王様、奴等がきました・・

勇者 なんだこれは？

勇者 なんか目にみえないバリアが、魔王城を覆い尽くしてゐた
いだ

勇者 魔法つかい、なんとかならないか？

魔法使い うーんやつてみる

魔法使いは呪文を唱えた。

魔法使い ファイアボール！！

魔法使い ・・・・・

魔法使い 無理みたいね・・

僧侶 まかせろ・・・ワシには次元に穴を開ける魔法があるので

勇者 よっしゃ頼むぞ僧侶

僧侶 精霊の名において～（略）

バリアに人間が通れるくらいの穴が開いた。

勇者 よっしゃでかした

勇者 お前等行くぞ、ここからは敵の領域だ。油断するなよ！

魔法使い 腕がなるわ・ウヒヒヒ

僧侶 ぶちころーーす

勇者一行はいつになく殺氣だった様子でバリアの中へ足を踏み入れた。

目は血走っていた。

魔物偵察A やばい・・・奴等キレテル・・

魔物偵察A 取りあえず魔王様に知らせなければ・・

魔物偵察Aは魔王城へ飛び立った。

魔物偵察A 魔王様奴等がバリアを破つて入つてきました。

魔王 ・・・・

姫 どうじょう・・

魔王 ここまでか・・

その頃

部下Aは城につくと、王に近づく機会を伺っていたが
周りの警護が厳しいため、近寄れずについた。

部下A クソ・・どうすれば・・
部下A とても近づけそうにない・
部下A そうだ、人間に化けよう。

部下Aは兵隊Aに変化した。

兵隊A よし乗り込むか、急がないとな・・
兵隊A みんなの命がかかつてる・・
兵隊長 こりゃお前ちゃんと守備につけ、仕事をほんなよ
兵隊A すみません・・・

そう言つと兵隊Aは城内へ入つていった。

兵隊A 結構いいくんでるな・
兵隊A しかし、良く考えるとこの姿は田立ちすぎだな・
兵隊A 蚊にでも変わるか・・
兵隊Aは蚊に変化した。

蚊 よしこれで一気に王のところに飛んでいくぞ

そういうと蚊は最上階の王の間までやってきていた。

蚊 わてどり王と兵隊達とを遠ざけるかだが・・
蚊 仕方ない

なにやら蚊は魔法唱え始めた。

王や側近、兵隊達は突然眠気がして全員ぱたぱたと倒れていった。

蚊 よし王を少し離れた部屋に運ぶぞ

蚊は部下Aに変化すると王様を脇に抱え
王様の血室へ運んだ。

部下A 起きるまで待つか・・

部下A いや・・時間がない・・

部下A 王様起きろ！「バチバチバチバチ」

部下Aは王様に往復ビンタをかました。

王様 うう、なんだ・・！？ヒアアアア

部下A 騒ぐな、騒ぐと殺すぞ・・

部下A ちょっと話を聞いて欲しくて、お前と一人になつた。

部下A おまえんとこの姫のことだが・・

王様 む・・

王様 ひ・姫がどうした？無事か・・？

部下A 無事だ・・というよりは俺達がお世話になつてゐるといふか・・

・

部下Aは王様に一部始終を話した。

王様 ほお・・人間語を教えるために姫をさらつたとな・？

王様 ふむ・・

部下A 魔王様はなんていうか・・おっちょこちょいというか・・

部下A でも、根は良い魔王なんだよ、人間とも仲よくしたいと思

つてゐる。

部下A だけど、お前等、俺達みると切りかかつてくれるし

部下A 話も聞いてくれないんでな・・

部下A もちろん人間語話せない奴もいるし、

部下A だから魔王様は姫をつかつて奴等を教育しようとい、たまに

頑張つたらこんなことに・・

王様 ふむ・・・あい分かつた・・

王様 わしがなんとかしよう

部下A おおゝ助かるよ、とにかく時は一刻を争つ

部下A 勇者一行をなんとかしてくれ・・

王様 勇者に兵を送り、やめるよう指示をしよう。

部下A たのむ・・急いでくれ・・

部下Aはさういつと魔王城へ帰つていった。

王様 ふむ、魔物は魔物で苦労してゐるんだな、兵よ、起きろ。

兵は寝ていた。

王様 こつなればわしが・・

王様 ドラゴンよ！来たれ！

ドラゴンよ ワシを乗せて魔王城へ！

ドラゴン キーーーーーー！

部下Aが魔王城に変えると、勇者が暴れていた。

部下A なんてこつた・・

魔物D おで・・おまえ・・と戦う氣な・・い

勇者 黙れ魔物が、死にさらせ

魔法つかい ファイアボール・・・

魔物Dは息絶えた。

姫 やめてよ―――勇者様！
なんてひどいことを・・

勇者 姫良くご無事で・

勇者 こいつら亡き者にした後、魔王もぶちこりします
勇者 それが終わつたら、一緒に帰ります(二口)

姫 だから～～そんなことしないで・・

勇者 え・・?

姫 魔物は人間と変わらないの・だからやめて！

勇者 そんなこと・・あるはずないですよ・・

姫 いいえ・・あなたは間違っています。

勇者 しかし・・王様の命令ですよ？

姫 それでもダメです。

僧侶は姫に近づくと首に手で打撃を『』えた。

姫 あああ・・・

姫は氣絶した。

勇者 お前・・なにを・・

僧侶 こうするしかなかつた・

僧侶 たぶん姫は操られているんだ・

僧侶 一刻も早く魔王をおしにいこう

魔法 それもそうね、雑魚どもは無視して魔王のもとへ！
勇者 ・・・よしこうか！

部下A なんてこつた・・とんでも解釈しやがつて・・

部下A ジリなれば魔王様と共に戦うのみ・・

部下A いざなれば魔王様と共に戦うのみ・・

部下A ただ今戻りました・・

魔王 おお、帰ったか・・

魔王 どうだ? 話はついたか?

部下A はい・・直に王の兵士が来ます、王の伝令を勇者に渡すために。

魔王 おおそうか・・

部下A ただ・・魔物たちは倒れ、姫が説得したにもかかわらず勇者一行は

それをまともに受け入れず、姫を氣絶させてしまいました。

部下A 間もなく、こちらに勇者もくるでしょう。

魔王 そうか・・

部下A たぶん兵士の伝令は間に合わないかと思います。

魔王 仕方ないな・・これもワシが撒いた種だ・・

部下A 魔王様、私も全力で戦います。死ぬなら一緒にで・・

魔物たち ぐええええ

魔物たち あいつら鬼だ・・

魔物たち 魔王様のところまで逃げろ!

魔王の間へゾロゾロ魔物たちがやつてきた。

魔王 ・・・

魔物たち 魔王様死ぬなら一緒にだ・・

魔物たち やりまつせ・・

魔王 お前等・・

勇者一行が魔王の間へやつてきた。

勇者 魔王！決着をつけにきた！

魔王 よくきたな 勇者

魔物たち おでも・・ガガガ

魔王

勇者　　三　　黙行　　雲者　　相　　日　　「シ」　　一　　介

魔王 タイマジだ！こい！

魔法使い フフン・甘いわね・・私がなんで経験値必死こいてためて、全体魔法覚えたと思つてるの！

魔法使いが口をだしてきました。

魔法使い あんた達全員一瞬で丸ごげにするためよ・・・いや
僧侶 そうそう・・おらあ何が楽しつつてお前等ぶちこねーすのが
一番の楽しみなんじや

關學二書

僧侶も呪文を唱え始めた。

勇者はオリバルーンの剣を抜いた。

その瞬間ドライゴンの声が響き渡る

卷之二

勇者は攻撃体制を緩める

王様 勇者よ！まて！はやまるな！

王様 そいつらは悪くない・・・話をきけ！

勇者 王様・なぜここへ？

王様 そんなことはいい、退け！

魔法使い フフン今更やめられるかつてーの

僧侶 その通りじゃ・・・

王様 くつやむおえん

王様 ドラゴンブレース！！

ドラゴンは勇者一行に炎を吐いた。

勇者 一行 ぐわああああ

僧侶 なにすっだー王様

僧侶 わかつたぞー王も魔王の魔法で操られてるんだ。

王様 そんなわけあるか！

魔法使い 仕方ない、王様からなんとかするわよ！

勇者 え・・・マジか・・?お前等・・

僧侶と魔法使いは目がイッテイル・・

勇者 ちょまてって・・

魔王 く・・王様が危ない・・

魔王 おまえらー！

魔物たち おう！-

部下A うりやああ

王様 仕方ない、もう一度ドラゴンブレスだ

勇者一行を四方から敵？が襲う。

勇者 一行 ええ・・なに・・そんなあ・・

勇者一行はフルボッコにあり、全滅した。

王様 すまないな・・勇者達よ・・こうするしかなかつたんだ・・

魔王 ・・・・・

部下A 仕方がなかつた・・奴等・・信じないんだもん・・

姫がやつてきた。

姫 ああ勇者様・・だから違うつていつたのに・・

王様 おう姫よ、話は聞いたぞ・

姫 お父様・・

魔物たち よかつ・・つた ガウガウガガガ

魔王 ほろり(涙)

こうして魔物たちは人間語を学び、人間達と共に存共栄を目指し
世の中は平和になりましたとさ・・

(後書き)

疲れました・・・ノンストップで書き続け、途中だんだんめんどくさくなつて・・取りあえず平和に終了・お疲れ様でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4950e/>

悪者たちのぶつくさ

2011年1月9日02時31分発行